

推薦入試見直し論

首都圏では、前期・後期に分かれていた埼玉、千葉、神奈川の公立高校入試（入学者選抜）が一本化され、3県すべての入試で学力検査を実施することとなった（神奈川は平成25年度から）。そこで注目されていたのが、残る東京都立高校の入試制度だ。

とくに学力検査をとまわらない推薦入試の行方について、他県の動向にならない、全廃など極端な改革に進むのが焦点だったが、2月9日の教育委員会を経て都教育庁が発表した「都立高校改革推進計画・第一次実施計画」によれば、少なくとも第一次実施計画の平成27年度入試までは、現行の制度がほぼ維持される。

また、25年度の推薦入試については、「検証を行い、生徒の

能力・適性・意欲等をより一層的に測る選抜方法へと改善を図る」とある。だが、「学力検査に基づく選抜」とは一線を画す項目として記述されており、推薦入試に学力検査を含んでいく方向に向かうとは思えない。あとの2年間も「検証・見直し」は行われるものの、「全廃」や「学力検査」の導入に進むとは考えられない。「実施計画」となっている。この「実施計画」は第二次、第三次と続けられ平成33年度まで計画されているが、第一次の方向性が覆ることはなさそうだ。

もともと、都立高校推薦入試が「選抜の役目を果たしていない」とする都教委の竹花豊委員と、「調査書で十分選抜できており、優秀な生徒を取れる制度」だとする現

推薦入試の行方@東京

場校長や都の入試担当らとの意識はつねに平行線。9月の教育委員会でも竹花委員は推薦入試見直し論を強く説いたが、他の委員に積極的発言はみられなかった。

この実施計画は、「案」の段階での昨年末、意見募集が行われたが、この項目に関する「主な意見」として「推薦で入学してきた生徒は授業に対する意欲が高い。推薦制度の継続を望む」という、ある副校長の意見のみが公表されている。

これから行われる「検証・見直し」では、推薦入試のなかで調査書以外の小論文採用校のさらなる拡がりや、進学後の成績調査などが含まれることになろうが、推薦入試制度に現行から大きな改善は行われたとしても、「推薦入試が

なくなる」などということはないそうだ。

「都立高校改革推進計画・第一次実施計画」の策定についてはこちらのHPを参考に。

2012・2・10
やまじもとひろ